

# リビングプレス

## Living Press

### 火災被害から命を守る わが家の防火&火災対策

自然災害の多い日本。自然災害を防ぐことはできませんが、日頃から各家庭で防災への意識を高め、不注意による人為的災害を防ぐのはもちろん、自然災害が起きた際の二次災害を未然に防ぐことが大切になります。今号では、特に季節の変わり目で強風や乾燥が続くこの季節に注意したい火災対策をまとめました。

Point  
1

#### 火を出さない！ 生活の中で絶対やってはいけないこと

防災は日頃からの心がけが最も大切。洗濯物を室内干しする際は、**ストーブの近くで干さない**よう注意を。コンセントにたまったホコリは空気中の水分を吸収し、微量の電気が流れて火災を引き起こすことがあるので、**こまめな掃除が不可欠**です。大型家電や家具の裏にあるコンセントは見落としがちなため、定期的に点検してください。

電気ストーブは安全と思われがちだからこそ注意を。近くに置いたスプレー缶が熱で破裂するケースも多い



#### キッチン

チェックポイント

- ガスコンロの近くに燃えやすい物を置かない
- 調理中にガスコンロから離れない
- ガスコンロの火を鍋底からはみ出さない

#### 寝室・居室など

- 暖房器具の近くに燃えやすいものを置かない
- 暖房器具の近くに殺虫剤やヘアスプレーなどのスプレー缶を置かない、使わない
- アイロンやドライヤーのプラグを差しっぱなしにしない
- たこ足配線をしていない
- コンセントにホコリをためない
- 寝タバコは絶対にしない

Point  
2

#### 万一出火したら——心を落ち着けてまずは初期消火

火が大きくなってしまったら誰でもパニックになりやすいので落ち着いて行動することが大切。火災の拡大を防ぐため初期消火が重要になります。調理中に油に引火した場合は、まずは加熱を止めることが肝心です。**絶対に水をかけたり、野菜を投げ込んだりしてはいけません**。水分が瞬間的に蒸発し爆発的に燃え広がってしまいます。初期消火のタイムリミットの目安は**出火してから1〜2分**。3分後には天井に燃え移ってしまうため、自身の初期消火は不可能。すみやかに避難します。

チェックポイント

- 天ぷら油に火がついたら絶対に水をかけない!
- 火元のガスや電気の加熱を止めて消火器を噴射



#### Column 覚えよう! 消火器は3ステップ

1 安全ピンを上引き抜く 2 ホースの先端を火元に向ける 3 レバーを握る



Point  
3

#### 天井に火が届いたら消火は困難! ただちに避難を!

煙は天井の近くからたまるため、**姿勢を低くして煙に触れないように逃げます**。部屋や建物に煙が広がらないよう、燃えている部屋の**窓やドアを閉めて避難**しますが、一度避難したら絶対に戻ってはいけません。また、玄関やベランダなど、いざというときの**避難経路は日頃から塞がないように注意**を払いましょう。ベランダから避難する際、「避難はしご」があるときは、これを使い下の階のベランダに降ります。ない場合は隣家との間にある「へだて板」を蹴って**破り避難はしごがあるベランダまで移動**します。

- 大声で周囲に知らせ119番
- タオルなどで口・鼻を覆い避難
- 煙が充満してきたら姿勢を低くして避難
- 燃えている部屋の窓や扉を閉める

#### 避難時のポイント

- エレベーターは使わず階段で避難
- 玄関から避難するのが難しいときは、ベランダから避難



姿勢を低くして、煙を吸い込まないようタオルなどで口を覆い避難



「非常の際にはここを破って避難」などと表記されたへだて板を、靴を履いて強く蹴破るか、金づちなどで叩き壊す

#### Column 覚えよう!

#### 地震発生による火災の二次災害を防ぐQ&A

- Q** 地震などの災害時に避難するときは?
- A** 火災を防ぐため電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめてください
- Q** エレベーターの中にいるときに地震が発生したら?
- A** すべての階のボタンを押し、あいた階で降りましょう

